

| | | | |
|---|---|-------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 保育児童学調査研究法 (2単位) | 3. 科目番号 | SJMP5103 |
| 2. 授業担当教員 | 石 曉玲 | | |
| 4. 授業形態 | 演習 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修条件は特になし | 履修形態 (通信教育) | SR |
| 7. 講義概要 | 保育児童学の研究においてよく用いられる調査研究法の中で質問紙法をとりあげ中心的に学ぶ。具体的には質問紙を作成して実際にデータを収集する。その後データの処理、データの整理方法を学ぶ (Excelを用いたデータ入力のワークシートの作成、データの処理および表やグラフの作成、基礎的な統計処理をSPSSで行う方法など)。最後に論文の形式を学習し簡単な論文にまとめる。その後他の方法について学習する。 | | |
| 8. 学習目標 | 本講義では、学生が研究の目的を達成するために、調査研究を計画し、データの処理を行うことができるための技術を身につけることを目的とする。 | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 毎回課題を与える。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | <p>【教科書】 鎌原雅彦・宮下一博他『心理学マニュアル質問紙法』北大路書房。 小塩真司『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで』東京図書。</p> <p>【参考書】 村井潤一郎『心理学研究法』サイエンス社。 保坂 亨・大野木 裕明・中沢 潤『心理学マニュアル 面接法』北大路書房。 中沢潤『心理学マニュアル観察法』北大路書房。 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房。 松尾太加志・中村知靖『誰も教えてくれなかった因子分析—数式が絶対に出てこない因子分析入門』北大路書房。 必要に応じてプリントを配布する。</p> | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | <p>○成績評価の規準 ①観察法、面接法、質問紙法の内容と実施方法を知り、それぞれの長所・短所を踏まえ研究目的に応じた使い方を理解する。 ②質問紙法における、質問紙の作成、データ収集、統計解析ソフト IBM SPSS Statisticsによるデータ分析の一連の作業ができる。 ③SPSSの分析結果を正しく理解し、図表にまとめ、論文の形式で記述することができる。</p> <p>○評定の方法 出席並びに日頃の授業参加態度 (50%) 課題の提出 (50%)</p> | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | ExcelとSPSSを使用して実際のデータを分析しますので、使い方を解説する参考書を読んでおき、またデータ及び分析結果はUSBに常時保存しておくようにしてください。 | | |
| 13. オフィスアワー | 第1回授業時にアナウンスする。 | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | |
| 1. テーマ | 方法論の概説 | | |
| 【学習の目標】 | 調査研究法の種類と目的に応じた調査研究方法の選択について学習する。 | | |
| 【学習の内容】 | 調査研究法の種類、文献収集の方法を知る | | |
| 【キーワード】 | 調査研究法、文献収集 | | |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 | | |
| 【参考文献】 | 村井潤一郎『心理学研究法』サイエンス社 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 自分の研究テーマについて述べられるようにしておく。 | | |
| 2. テーマ | 研究デザインのたて方、質問紙法とは | | |
| 【学習の目標】 | 研究デザインのたて方、質問紙法とは何かを理解し、質問紙作成の基礎について学ぶ。 | | |
| 【学習の内容】 | 質問紙法とは、項目作成にあたっての注意事項、回答方法、フェースシート作成について | | |
| 【キーワード】 | 質問紙法とは、項目作成、フェースシート | | |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 | | |
| 【参考文献】 | 鎌原雅彦・宮下一博他『心理学マニュアル「質問紙法」』北大路書房 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 教科書を予習しておくこと。 | | |
| 3. テーマ | 質問紙の作成の実際 | | |
| 【学習の目標】 | 信頼性と妥当性について知る。仮説をたててテーマを決める。 | | |
| 【学習の内容】 | 信頼性と妥当性、仮説について学習し、グループで質問紙の作成を開始する。 | | |
| 【キーワード】 | 妥当性と信頼性 | | |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 | | |
| 【参考文献】 | 鎌原雅彦・宮下一博他『心理学マニュアル「質問紙法」』北大路書房 | | |
| 【学習する上での留意点】 | 教科書を予習しておくこと。 | | |

| | |
|--------------|--|
| 4 . テ ー マ | 質問紙の作成（1） |
| 【学習の目標】 | 質問紙を作成する。 |
| 【学習の内容】 | 質問紙を作成して、形式を整える |
| 【キーワード】 | 質問の形式 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 鎌原雅彦・宮下一博他『心理学マニュアル「質問紙法」』北大路書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 教科書を予習してこること。ワード等を使用する。 |
| 5 . テ ー マ | 質問紙の作成（2） |
| 【学習の目標】 | 質問紙を作成する。配布と回収について計画できる。 |
| 【学習の内容】 | 質問紙を作成して、形式を整える。依頼文の作成。配布と回収について計画する。 |
| 【キーワード】 | 質問紙の作成 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 鎌原雅彦・宮下一博他『心理学マニュアル「質問紙法」』北大路書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 教科書を予習してこること。ワード等を使用する。 |
| 6 . テ ー マ | 変数の記述 |
| 【学習の目標】 | 1つおよび2つの変数の記述について知る。 |
| 【学習の内容】 | 尺度水準、代表値、散布図、相関関係について学ぶ |
| 【キーワード】 | 尺度水準、代表値、散布図、相関関係 |
| 【学習の課題】 | 授業中に指示する。 |
| 【参考文献】 | 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 予習してこること。 |
| 7 . テ ー マ | 統計的仮説検定、2つの平均を比べる |
| 【学習の目標】 | 1つおよび2つの変数の記述について知る。 |
| 【学習の内容】 | 尺度水準、代表値、散布図、相関関係について学ぶ |
| 【キーワード】 | 尺度水準、代表値、散布図、相関関係 |
| 【学習の課題】 | 授業中に指示する。 |
| 【参考文献】 | 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 予習してこること。 |
| 8 . テ ー マ | 3つ以上の平均を比べる |
| 【学習の目標】 | 分散分析について知る。 |
| 【学習の内容】 | 分散分析の手順、分散分析の読み方について学ぶ |
| 【キーワード】 | 分散分析、多重比較、交互作用 |
| 【学習の課題】 | 授業内にて提示する。 |
| 【参考文献】 | 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 予習してこること。 |
| 9 . テ ー マ | 因子分析 |
| 【学習の目標】 | 因子分析について知る。 |
| 【学習の内容】 | 因子分析の手順、因子分析の読み方について学ぶ |
| 【キーワード】 | 因子分析 |
| 【学習の課題】 | 授業内にて提示する。 |
| 【参考文献】 | 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 予習してこること。 |
| 10 . テ ー マ | データの処理の実際（1） |
| 【学習の目標】 | ワークシートの作成とデータの入力ができ、平均値などの処理ができる。 |
| 【学習の内容】 | Excelでワークシート作成して、データを入力する。度数分布を求めるなど。 |
| 【キーワード】 | 度数分、平均、割合 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 授業中で提示する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 授業を通して自分で処理できるようになること。 |
| 11 . テ ー マ | データの処理の実際（2） |
| 【学習の目標】 | 表やグラフの作成ができる。 |
| 【学習の内容】 | 形式の整った表を作成する。グラフを作成する。 |
| 【キーワード】 | グラフ、表 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 授業中で提示する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 授業を通してグラフや表を書くことができるようになること。 |
| 12 . テ ー マ | データの処理の実際（3） |
| 【学習の目標】 | 統計処理を行い、結果を整理できる。 |
| 【学習の内容】 | 統計処理を行い、グラフや表から結果を読み取る。統計処理の結果を表示、記述できる。 |
| 【キーワード】 | 統計処理 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 授業中で提示する。 |
| 【学習する上での留意点】 | 予習してこること。 |

| | |
|--------------|----------------------------------|
| 13. テーマ | 結果のレポートの作成 |
| 【学習の目標】 | 論文の形式を知る。データを元に論文を作成する。 |
| 【学習の内容】 | 調査結果の整理方法および論文（レポート）のまとめ方について知る。 |
| 【キーワード】 | 論文（レポート）のまとめかた |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 村井潤一郎『心理学研究法』サイエンス社 |
| 【学習する上での留意点】 | レポートのまとめ方について予習をしてくる。 |
| 14. テーマ | 観察法とは |
| 【学習の目標】 | 観察法とは何かを知る。 |
| 【学習の内容】 | 観察法について、その種類や方法について |
| 【キーワード】 | 観察法 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 中沢潤『心理学マニュアル観察法』北大路書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 観察法について調べてくる。 |
| 15. テーマ | 面接法とは |
| 【学習の目標】 | 面接法の実際について知る。 |
| 【学習の内容】 | 面接法の実際について学習する |
| 【キーワード】 | 面接法、構造化面接、半構造化面接 |
| 【学習の課題】 | 授業内で提示する。 |
| 【参考文献】 | 保坂亨『心理学マニュアル面接法』北大路書房 |
| 【学習する上での留意点】 | 復習すること。 |